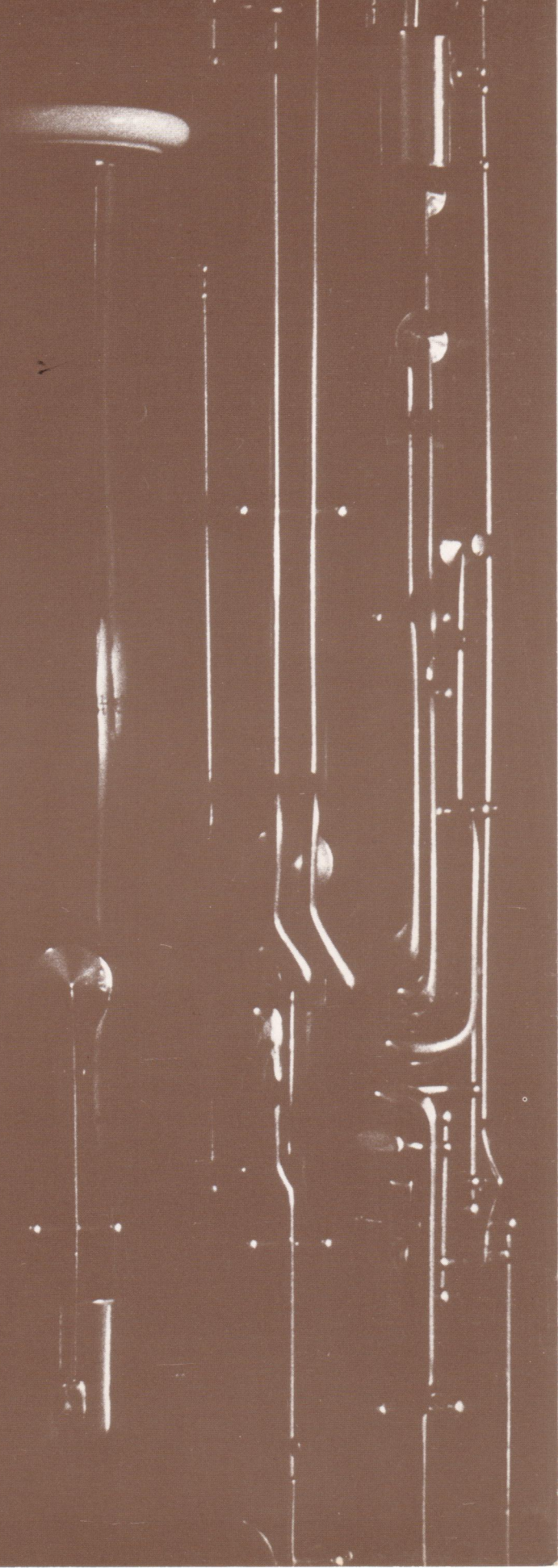
Masahito Tanaka
Bassoon Recital



PROGRAMME

NOËL GALLON	Récit. et Allegro
SAVERIO MERCADANTE arr. E. Jancourt	CAVATINE di Donna Caritea
CARL JACOBI	Pot-Pourri Op. 16 sur des motifs favoris "de l'Opéra Zampa d'Herold"
ROGER BOUTRY	Interferences 1

*

FRANCOIS DEVIENNE	Sonata C-dur für Flöte, Fagott und Klavier Allegro moderato Adagio Rondo, Allegro assai
ATSUO KANEKO	Le Vent dans la Roselière
CARL MARIA von WEBER	Andante e Rondo Ongarese Op. 35

ノエル・ギャロン	レシタティーヴォとアレグロ
サヴェリオ・メルカダンテ 編曲：ジャンクール	ドンナ・カリテアの"カヴァティーナ"
カール・ヤコビ	ポ・プリ 作品.16 エロルドのオペラ「ザンパ」の主題による
ロジェー・ブトゥリー	アンテルフエランス 1

*

フランソワ・ドゥヴィエンヌ	フルート、ファゴットとピアノのためのソナタ ハ長調 アレグロ・モデラート アダジオ ロンド、アレグロ・アッサイ
金子 篤夫	葦の原を渡る風(本邦初演)
カール・マリア・フォン・ウエーバー	アンダンテとハンガリア風ロンド 作品35

1984年7月16日(月) 石橋メモリアルホール

コンサート・マネージメント：神原音楽事務所

ファゴット
田中雅仁　Masahito Tanaka

1951年　東京生れ。

1966年　元日本フィルハーモニー首席奏者戸沢宗雄氏に師事。（現札響首席）。

1974年　3月桐朋学園大学音楽学部を音楽賞を得て卒業。5月読売新聞社主催新人演奏会に出演。9月ボストンのニューイングランド音楽院に留学。M.ルジエロ氏に師事。

1975年　G.シューラーのニューイングランド・コンテンポラリー・ミュージック・アンサンブルのソロ・ファゴット奏者となる。現代曲の世界、アメリカ初演多数。

1976年　ニューイングランド音楽院卒業。Master of Music を得る。5月ボストン・ポップス・ソリスト・オーディションに優勝。アーサー・フィードラー指揮のボストン・ポップスと共演する。7・8月タングルウッド音楽祭に参加。S.チェイピン・フェローシップをうける。9月ボストン大学芸術学部博士課程に入学。S.ウォルト氏に師事。

1978年　8月オランダへ渡りアムステルダムのスウェーリンク音楽院でJ.モスタード氏に師事。11月「ハーグ・フィルハーモニー」の首席奏者に就任。

1979年　9月「南西ドイツ放送交響楽団」の首席奏者に就任。

1980年　1月アムステルダムのスウェーリンク音楽院において客員教授としてリード・メイキングのマスター・クラスを開く。8月第一回草津インターナショナル・フェスティヴァルに招かれ室内楽を演奏。また日本で発見された J.S.Bach のコラール「Aus der Tiefen」の初演・独奏をつとめる。

1981年　8月「ベルギー国立歌劇場交響楽団」の首席奏者に就任（音楽監督 J.プリッチャード、S.カンブルラン）

1982年　12月～83年4月モーリス・ベジャールの20世紀バレー団とパリ、ブリュッセルで共演また同バレー団のために、「春の祭典」「兵士の物語」をレコーディングしベジャールに絶賛される。

現在ソリストとしてもヨーロッパ各地で演奏。日本でのデビューは1983年6月、札幌交響楽団との Danzi の協奏曲演奏。レコードは Pavane、EMI、TRM より発売されている。

田中 雅仁　　陸井 鉄男　　角 聖子

フルート
陸井鉄男 Tetsuo Kugai

1951年東京生れ。
12才よりフルートをはじめ、1966年～1970年菅原早苗氏に、1970年～1972年植村泰一氏（ＮＨＫ交響楽団）に師事。
1972年に渡仏し、ロベール・エリッシェ氏（元パリオペラ管首席奏者）に師事。同年10月、パリ国立音楽院に入学しジャン・ピエール・ランパル氏、アラン・マリオン氏に師事。1975年フルート科卒業。
同年室内楽科に入学し、ギュイ・ドウプリュ氏に師事。
1977年１等賞を得て卒業する。
1978年西ドイツ・エッセン国立音楽大学に入学し、マティアス・リュッタース氏（元ベルリンフィル首席奏者）に師事。
1980年同校を卒業。
国際コンクールは1981年「プラハの春・国際コンクール」で「Cestne-Uznani」、1983年「マリア・カナルス国際コンクール」で「Diploma-d'Honor」を受賞する。又、1979年にはボルドーフェスティバルに招かれ、リサイタルを行なう。
現在ドイツを中心に演奏活動中。

ピアノ
角　聖子 Seiko Sumi

福岡県出身。
末永博子氏に師事。また桐朋学園高校にて井上直幸、山岡優子両氏に師事。この間、九州交響楽団と協演、リサイタルを行なう。
1977年西独フライブルグ国立音楽大学に入学し、E.ピヒト・アクセンフェルト教授に師事。
1980年同校を首席で卒業。
現在ベルギー、ドイツを中心に演奏活動中。

作曲
金子篤夫 Atsuo Kaneko

1935年東京に生まれる。東京芸術大学作曲科、楽理科、パリ・エコール・ノルマルに学び、長谷川良夫、柴田南雄、池内友次郎、J.ルメールの諸氏に師事。
現在桐朋学園大学助教授。

Introduction

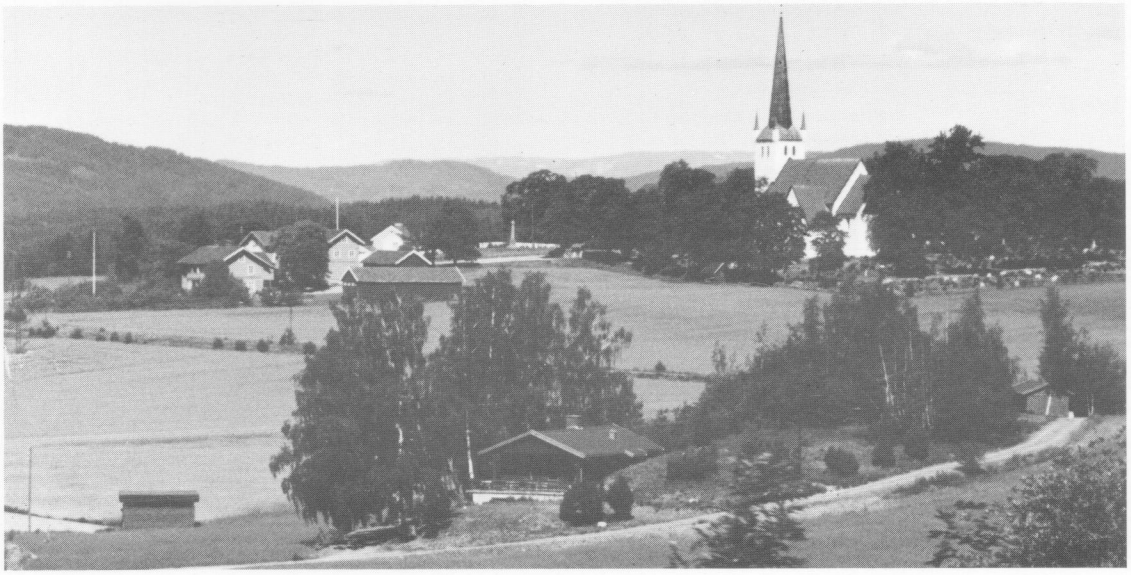
Eva Weisse
エヴァ・ヴァイセ

過去10～15年間における音楽界の顕著な事柄の一つに、ソロ楽器としての管楽器のリヴァイヴァルがある。「ロマンティック・ヴィルテュオーゾ」の時代以後この時期まで、演奏会におけるソロは、ほとんどピアノとヴァイオリンに限られていた。そして管楽器は常にその影に留まらなければならなかった。演奏技術の進歩がこのリヴァイヴァルを可能にした大きな原因であるが、また同時に、人々が豊かで爛熟した後期ロマン派の響きを好むようになり、その中の色彩豊かな木管楽器の音に耳を傾けるようになったことも、それを助けたのであろう。

そしてこの間、フルートをリーダーとして他の木管楽器がソロ楽器としての地位を確立してきたにもかかわらず、ファゴットはごく最近までソロ楽器としては顧みられることがなかった。そして一部の標題音楽がこのような連想を容易にしてしまったのであろうが、「オーケストラの道化」といういい方で代表される様に、おどけた表現が得意だけの低音楽器と思いこまれていたのである。しかし、マルセル・モイーズも語っているように、ありふれた常套句で頭ごなしに楽器の性格をきめつけるような時代はとうに終ったのである。現代の高度な演奏技術の完成により、ファゴットはその広い音域と豊富な音色、また広いダイナミクス・レンジによって、木管楽器の中でもひときわ豊かな表現力をもつようになったのである。

そのファゴットの可能性をひきだせる現代の名手の一人が田中雅仁である。彼は火花の散るような超絶技巧、ノーブルで変化に富んだ音色、4オクターヴをこす広い音域、そして、日本人のデリカシーをもってヨーロッパ楽壇にあらわれ、ソロ楽器としてのファゴットを認識させた。彼のスタイルは（経歴の示すとおり）大変インターナショナルである。彼は19世紀末から二つに分れてしまったこの楽器の両方のシステム(ドイツ式とフランス式)の良いところをとり、合わせ持つことに成功した。すなわち、現在世界で広く使われているドイツ式の楽器を用い、その豊かな音量と響に、失なわれつつあるフランス式のもつ柔軟性と繊細さを加えたものである。すでに発売されている2枚のソロ・アルバム（Pavane社、「The Golden Age of the Bassoon」「The Song of the Bassoon」）で彼のすばらしい演奏を聴くことができる。特にR.Korsakovの「熊蜂の飛行」とG. Briccialdiの「ヴェニスの謝肉祭」（もともとフルートの曲である）の演奏は、この楽器のテクニカルな可能性を認識させるに充分であろう。

1984年5月　西ドイツ・エッセン市にて



Programme note

Eva Weisse
エヴァ・ヴァイセ

レシタティーヴォとアレグロ

ノエル・ギャロン（1891～1957）はフランスのハーモニーの大家で、またパリ音楽院の教授であった。「レシタティーヴォとアレグロ」は同僚であったファゴット科教授のF・ウーブラドゥに捧げられた。見事なハーモニーの変化と美しいメロディーはまさにフランスの香りそのものといえよう。

ドンナ・カリテアの"カヴァティーナ"

19世紀はファゴット（英語でバスーン）奏者、製作者にとって大きな飛躍の時期であった。Heckel、Buffet等による改良に伴い、何百という曲が書かれてヴィルテュオーゾに捧げられた。まさにファゴットの黄金時代といえよう。ファゴット奏者達はまた、彼等の楽器のために編曲可能な材料を常にさがしていた。

サヴェリオ・メルカダンテ（1795～1870）の「カヴァティーナ」はその種の編曲の良い例である。この曲は19世紀フランス最高のヴィルテュオーゾであったE・ジャンクールによって編曲された。ファゴットのノーブルで豊かな響きがよく生かされている。

ポ・プリ 作品16

カール・ヤコビ（1791～1852）は19世紀ドイツ最大の名人であり、またすぐれた作曲家でもあった。「ポ・プリ Op.16」はオリジナルにはファゴットと弦楽五重奏のために書かれた。エロルドのオペラ「ザンパ」の主題によるこの曲は彼の数多い作品中特に有名で、ストックマール男爵に捧げられている。

ポ・プリは（混成曲）と訳される。19世紀に流行した形式でいくつかのテーマとヴァリエーションからなる。

アンテルフエランス 1

ロジェー・ブトゥリー（1932～）は現在パリ音楽院の作曲科教授であるが、ピアニストとしても有名であり、また最近はコンサートやオペラの指揮もてがけている。「アンテルフェランス」は1972年に書かれ、M・アラールに捧げられた。ファゴットとピアノ、二つの音の波が互いにぶつかりあいながら、つまり「インターフェア」（英）しあいながらこの曲を構成している。

フルート、ファゴットとピアノのためのソナタ ハ長調

フランソワ・ドゥヴィエンヌ（1759～1803）はフルートとファゴット両方の楽器の名手であり、パリ音楽院においてこの二つの科の教授であった。モーツァルトと同時代に生きた彼の作品は、そのエレガンスにおいてよくにており、彼のB-durの協奏曲は長い間モーツァルトのものと思われていたほどである。この「ソナタ」は彼の最も初期の作品の一つで、軽快なリズムとみずみずしいメロディーにみちている。

葦の原を渡る風

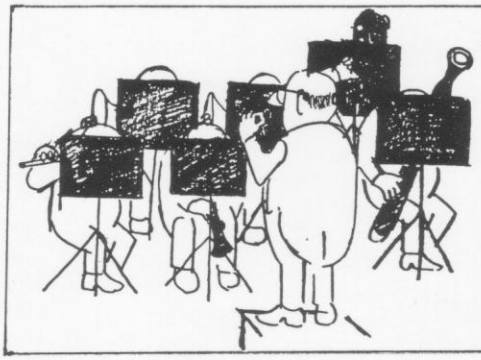
一管のファゴットで何を為し得るか……。未知の楽器との協唱を探りながら、発端は心もとなかった。「葦の原を渡る風」とは、いかにも印象派風な題名で面映ゆくもあるのだが、ファゴットの音をイメージに描いたとき、私は、一面の葦の原を吹き分ける風の光景を視たと思った。フランドル派様の鈍色（ニビイロ）の空の下の荒寥たる風景を。そして、田中さんの音には葦のざわめきが聴こえた。もとより描写的意図はなく、その風景を心象に据えて、昨1983年の夏、仕事を進めた。初演地がブリュッセルであるため、タイトルを日本語とするわけにはいかず、仏語の"Le vent dans la Roselière"を選んだ。ファゴットが蔵する

美質、旋律性と敏捷性、勁(つよ)さと愴ましさを秘めた力性、それらを少しでも拓(ひら)けたらと希った。田中さんの妙技性と音の美しさに惹かれたのも事実である。CHANT（歌）－TIMBLES（音色）－RESONNANCES（響き）の小三部からなり、続けて奏される。再演を機に改訂を加え、協同作業者ともなった今日の演奏者に献呈。

1984年6月15日　金子篤夫

アンダンテとハンガリア風ロンド 作品35

カール・マリア・フォン・ウエーバー（1786～1826）の「アンダンテとハンガリア風ロンド」は19世紀初めに書かれた曲であるが、来たるべき黄金時代を暗示するかのような華やかなパッセージをもっており、現在でもファゴットのレパートリーの中で最もポピュラーな曲となっている。



音楽仲間が集まったら……

ミックで楽器談議に花を咲かせましょう！

●オーボエ
●ファゴット
●フルート

豊富な在庫、行き届いた調整
付属品も充実の木管楽器専門店

TOKYO MIC
株式会社東京ミック

〒160 東京都新宿区高田馬場2-14-7 新東ビル4F ☎03(208)8331〈代表〉

今、鮮やかに蘇る！ バスーンの黄金時代!!

ザ・ゴールデンエイジ・オブ・ザ・バスーン／田中雅仁

〈A面〉（アルメンレーダー）序奏と変奏 作品4
/（ヤコビ）ポ・プーリ 作品16

〈B面〉（ヤコビ）序奏とポロネーズ
/（ウェーバー）アンダンテとハンガリー風ロンド 作品35
/（ヴァイセンボルン）アダージョ 作品9-2

田中雅仁〈バスーン〉，角 聖子〈ピアノ〉

好評発売中

〈ベルギー直輸入盤・日本語解説書付〉

PAVANE RECORDS
パヴァーヌレコード・PV26-0015　¥2,600

発売：アポロン音楽工業株式会社　〒160 東京都新宿区若葉1-5 ☎03(353)0191(代)